

平成 29 年度の主な新規事業・レベルアップ事業の実績報告について【高齢者支援課】

【新規】旧山崎邸活用事業

旧山崎邸活用検討委員会報告書に基づき開設準備を進め、北町高齢者センター開設 30 周年に合わせ 10 月に開設した。

(平成 29 年 10 月 15 日号市報「特集ページ」より)

8 平成29年10月15日号 市報 **むさしの** No.2075

# 北町高齢者センター 開設30周年

北町高齢者センターは、全国初の単独デイサービスセンターとして昭和62年10月にオープンした高齢者施設で、今年で開設30年を迎えます。節目となる今年、市では施設の拡充を行い、デイサービスの充実を図るとともに、自由来所型の子育てひろばを設置し、多世代交流も可能となる多機能型の施設となります。☎高齢者支援課60-1940



## 北町高齢者センターの歴史

北町高齢者センターは、高齢者が気軽に立ち寄れる場(コミュニティケアサロン)を作りたいという故山崎浩・倫子医師ご夫妻の思いから、所有する敷地を市に寄付することにより開設した、全国初の単独デイサービスセンターです。初代所長には寄付者であり、後に名誉市民に推挙された故山崎倫子氏が就任し、多くのボランティアが運営を支えてきました。施設には、単身高齢者向けの住宅である小規模サービスハウス(5室)が併設されています。

昭和62(1987)年10月	北町高齢者センター開設
平成2(1990)年3月	同センターの運営を市福祉公社が全面受託
平成7(1995)年2月	イギリス王室皇太子妃(故レディダイアナ)訪問
平成17(2005)年4月	施設管理委託導入
平成29(2017)年10月	旧山崎邸改修、子育てひろばオープン

## 旧山崎邸について

北町高齢者センターに隣接する故山崎ご夫妻の住宅兼診療所(旧山崎邸)は、平成27年5月に故山崎倫子氏から市が遺贈を受けました。故人の遺志に添うよう、市と福祉公社で活用方法を検討しボランティアの皆さんの意見もいただきながら、外観は当時の山崎医院そのままに、内部は北町高齢者センターのデイサービスの充実を図るほか、子育てひろば「みずきっこ」を設置し、子どもと高齢者の多世代が交流することも可能となる多機能型の施設として拡充することとしました。市の福祉施策に貢献された故人の功績を広く市民に伝えるため、建物内の一角を利用してメモリアルルームも設置します。




## 北町高齢者センターの概要

- **デイサービス**  
月～金曜：午前9時～午後5時、土曜：午前9時～午後2時／原則市内在住の65歳以上で要介護認定を受けている高齢者／1階は旧山崎邸の整備に伴い、新たに入浴サービスを実施、利用者の状況に応じた個別プログラムの活動室を設け、デイサービスの拡大・充実を図ります。
- **小規模サービスハウス**  
単身高齢者向けの住宅です。空室がある時、市報で募集します。
- **子育てひろば「みずきっこ」**＊運営団体：サニーママ武蔵野  
月～金曜／午前10時～午後4時／原則市内在住の未就学児と保護者／自由来所型／旧山崎邸2階に子育てひろばを設置し、従来のデイサービスと連携した多世代交流を視野に、子育て支援事業を行います。
- **メモリアルルーム「山崎浩・倫子」メモリアルルーム**  
毎週火・金曜：午後1時30分～3時30分

● **所在地** 吉祥寺北町4-1-16  
● **電話番号** デイサービスは ☎54-5300、子育てひろば ☎38-5150  
● **施設全体の休館日** 日曜、祝日、年末年始

● **記念式典** 10月22日(日)／北町高齢者センター  
＜内覧会＞午後1時～3時／当日、直接会場(旧山崎邸)へ、どなたでも参加いただけます。  
● 当日は、関係者による北町高齢者センター開設30周年記念・子育てひろば開所式典も行う予定です。

子育てひろば「みずきっこ」の利用実績

10月23日～2月末：子ども 609人、大人 564人 計 1,173人 1日平均 13.8人

## 【新規】高齢者・障害者施設の防犯対策の充実

平成 28 年 7 月、神奈川県の高齢者支援施設において多数の入所者が殺傷されるという痛ましい事件が発生したことを受け、あらためて社会福祉施設等における高齢者や障害者などの利用者の安全確保に対する重要性が高まっていた。本市においても、特別養護老人ホームや障害者グループホーム等の運営者が施設を安全に管理し、入居者が安心して生活できるよう、防犯カメラなど防犯設備を整備する運営法人に対して経費の一部を補助する。

### 【実績見込】

#### ●補助

- ・ 高齢者施設 3 か所 1,080 千円
- ・ 障害者施設 1 か所 266 千円

(※ほか障害者施設 2 か所は金額未定)

#### ●工事

- ・ 高齢者施設 3 か所 2,400 千円

### 【対策内容】

防犯カメラ、人感センサー（防犯灯）、110 番直結非常通報装置など

## 【レベルアップ】いきいきサロン事業

高齢者の社会的孤立感の解消と健康寿命の延伸を図り、住み慣れた地域で在宅生活を送れるよう、団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けた「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」の一環として、高齢者の集う場を開設・運営する団体に対して支援を行う。

### 活動内容

- 実施場所：個人宅、団地集会所等
- 実施頻度：週 1 回以上
- 対象者：概ね 65 歳以上の高齢者
- 参加人数：市民 5 名以上
- 安否確認を実施する。



平成 29 年度は 17 団体 (←28 年度 11 団体)

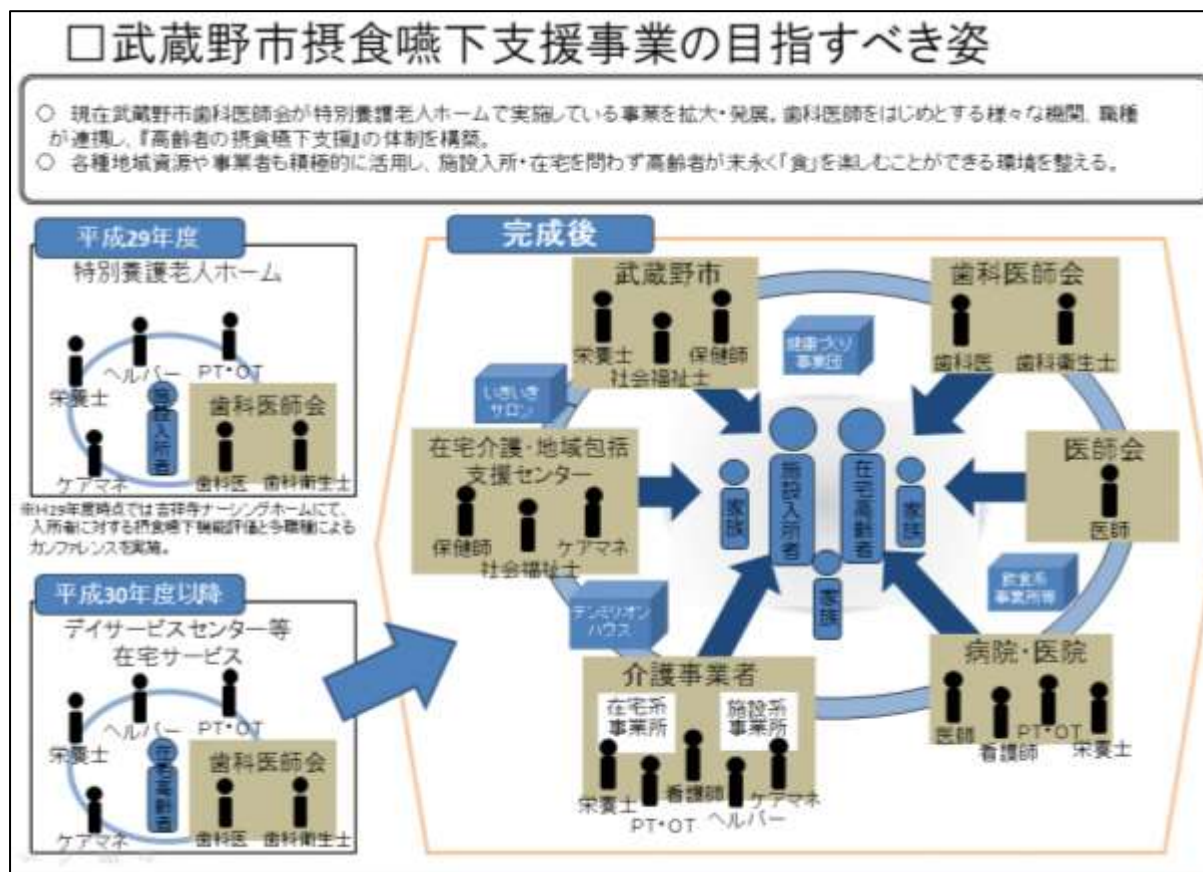
利用登録者数：363 名、平均利用人数：14 人/回 (平成 30 年 1 月現在、詳細は以下参照)

全サロン総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	64	67	70	71	60	68	70	66	61	58	0	0	655
市内人数	887	955	1029	961	848	943	962	908	897	711	0	0	9,101
市外人数	32	21	19	15	11	17	14	13	17	21	0	0	180
スタッフ	265	272	270	311	244	280	283	250	247	217	0	0	2,639
その他	89	111	126	142	87	121	69	74	87	39	0	0	945
多世代交流回数	2	1	1	1	6	2	1	1	1	0	0	0	16
多世代交流人数	13	9	13	56	22	32	12	12	6	0	0	0	175
共生社会回数	5	2	3	5	3	5	5	5	6	5	0	0	44
共生社会人数	8	4	3	7	7	8	7	8	8	8	0	0	68
月末時点利用登録者数	298	351	364	368	373	370	384	385	395	363	0	0	3,651

## 【新規】摂食嚥下支援事業

### 1 目的

地域包括ケアの推進にあたり、高齢者の摂食嚥下支援の体制を強化するため、市の事業として実施することで、摂食嚥下機能評価等のスキルやノウハウを有する歯科医師を育成し、多職種連携の摂食嚥下支援のしくみをつくり、全市的な在宅医療・介護連携の広がりを図る。



### 2 事業内容

平成29年度は市内特別養護老人ホームにおいて、武蔵野市歯科医師会の歯科医師と歯科衛生士が、施設の介護職や看護職、栄養士等とともに、毎月、入所者の摂食嚥下機能の評価とカンファレンスによる支援方針の共有化を行い、一人ひとりに合った食形態や介助方法の工夫等を行う。

### 3 実施内容（※平成 30 年 1 月末日現在）

場 所： 特別養護老人ホーム吉祥寺ナーシングホーム

実施回数： 年9回（原則毎月1回実施）

※1月は受け入れ施設の都合（インフルエンザ対応）のため中止

対 象： 全入所者（定員50名）

（内）摂食嚥下機能評価した者：延101名（月平均約11名）

（内）摂食嚥下について特に注意（支援）が必要な者： 延66名（※月平均約9名）

#### 4 成果

- ・施設での摂食嚥下機能評価において必要な項目の整理。
- ・摂食嚥下機能評価等のスキルやノウハウを有する歯科医師を育成するための実地の場の提供。

#### 5 今後の展開

在宅高齢者への摂食嚥下支援体制の構築に向けて、平成 30 年度は平成 29 年度に整理した施設入所者に対する摂食嚥下機能評価項目を基に、在宅高齢者の支援者（多職種）が使用しやすいよう多職種により検討する。